

野外教育における造形活動（第2報）

——子どもの道具使用実態調査・親子関係診断調査を通して——

渋谷 寿

Arts Activities in Outdoor Education (II)

The Actual Condition of the Children's Use of Tools
and the Diagnostic Inquiry of Parent-child Relationships

Hisashi SHIBUYA

緒 言

野外教育の場における、教育効果の高い造形活動のあり方を探る為に、前報¹⁾において、子どもの手の労働・道具使用の問題に視点を向け、アンケート調査と観察調査の結果を比較検討した。その結果、近年問題となってきている、子どもの手が巧み性に欠けるという明確なデータは得られず、子どもは玄能・のこぎり等の道具を使用する技術を短期間で修得できるという事実と、子どもは道具を使えないという親の思い込みや、教育的管理の姿勢が、子どもの道具経験の場を狭め、造形意欲にまで影響している可能性があることが明らかになった。そこで今回は、昨年度に準じた内容の2つの調査の他に、親子関係診断調査を合わせて実施し、検討したので報告する。

方 法

1. 子どもの日常の道具使用・行為調査（アンケート調査）

1) 対象

昭和61年7月に行われた山梨大学教育学部山梨幼児野外教育研究会主催の幼児キャンプ・小学生キャンプに参加した幼稚園年長児49名、小学校1年生22名、小学校2年生35名、小学校3年生34名の保護者140名

2) 調査内容

キャンプクラフトでの使用を検討することを前提として選び出した、次の12種類（昨年度の調査内容とは一部異なる）の道具使用・行為〔はさみで紙を切る・紐を結ぶ・玄能以釘を打つ・ドライバーでねじを締める・カッターで紙を切る・小刀で鉛筆を削る・のこぎりで木を切る・ペンチで針金を切る・ペンチで針金を縛る・きりで木に穴をあける・のりで紙を貼る・接着剤（のり以外）を使う〕について、保護者に4段階評価（A：うまくできる。B：なんとかできる。C：思うようにできない。D：ほとんどできない・未経験）をしてもらった。その他に、子ども及び親の玩具を作る経験についての設問、作る玩具の素材に関する設問、親の日常の保育・教育姿勢に関する設問、子どもの普段の遊び集団に関する設問に回答してもらった。

3) 調査時期

昭和61年7月中旬、キャンプの事前調査として調査用紙を配布、幼児キャンプ初日の昭和61年7月23日・小学生キャンプの初日7月27日回収。

2. キャンプクラフト実践時の道具使用・行為調査（観察調査）

1) 対象

「子どもの日常の道具使用・行為調査」の調査用紙を回収した幼稚園年長児49名、小学校1年生22名、小学校2年生35名、小学校3年生34名、合計140名の幼児・児童。

2) キャンプクラフトの概要

共同製作によるキャンプクラフトのテーマは、「和太鼓作り」と「おみこし作り」（図1、2）とし、幼児キャンプ、小学生キャンプにおいて、それぞれ班別の作業を中心として、次のように実践した。



図1 和太鼓作り

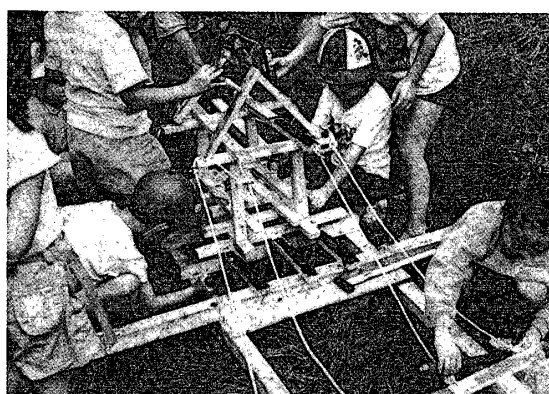


図2 おみこし作り

和太鼓作り：直径30cmの樽の底にクリックドリルで小穴をあける。その穴より、回し引きのこぎりで底を切り抜く。あらかじめ円形に切り抜き、水につけておいた牛皮の周囲8ヶ所に小刀で1cm程度の切り込みを入れる。底を切り抜いた樽の上下ともに加工した牛皮を被せる。綿ロープを用いて、上下の皮を縫うように樽に固定させ、最後にロープを締め上げ結ぶ。乾燥させて完成する。なお、樽を用いたものは両面皮張りとし、桶を用いたものは片面皮張りの太鼓とした。

おみこし作り：5cm角角材と1cm厚杉板をのこぎりで切断し、玄能で釘を打ち、おみこし本体の骨組を作る。桧角材・杉板を組み上げ、上部の飾りを作る。角材・上部飾りの数ヶ所に、クリックドリルで穴をあけ、飾り紐を通して結ぶ。最後に、木の実・マツボックリ・草の葉等を飾り、着色し完成する。

製作した「和太鼓」と「おみこし」はキャンププログラムの中の1つであるキャンプ祭において使用し、子ども達全員が太鼓をたたき、おみこしをかつぐ経験を持ち充分楽しんだ。

3) 調査内容

キャンプクラフト実践時において次の5種類の道具使用・行為（のこぎりで木を切る・玄能で釘を打つ・クリックドリルで木に穴をあける・紐を結ぶ・木の角をノコヤスリで削る）及び、全体を通した総合について、それぞれ3要素「興味・意欲」、「技術・能力」、「楽しさ・充実度」を各班（子ども8～10名）のキャンプカウンセラーが4段階評価（「技術・能力」について、A：うまくできる。B：なんとかできる。C：思うようにできない。D：ほとんどできない、「興味・意欲」「楽しさ・充実度」について、A：非常にある。B：ある。C：あまりない。

D：ほとんどない)を行った。評価は各作業終了時、すなわち子どもがある程度道具を扱い慣れた頃に行った。なお、のこぎりは片刃のもの(プロトンパワーソー、江戸目、刃長240mm)、玄能は185gの重さのもの、クリックドリル・ノコヤスリは一般用のものを用いた。

4) 調査実施日

幼稚園年長児を対象に、3泊4日の幼児キャンプの2日目、昭和61年7月24日に実施、小学校1・2・3年生を対象に、4泊5日の小学生キャンプの2日目、昭和61年7月28日に実施。

5) 調査場所

静岡県富士宮市静岡県立朝霧野外活動センター

3. 親子関係診断検査

1) 対象

「子どもの日常の道具使用・行為調査」の対象者と同じく、キャンプ参加幼児・児童の保護者140名のうち調査用紙を回収した124名。

2) 調査内容

田中教育研究所編・両親態度診断検査(母親用)を用い、母親の、子どもに対する8態度(消極拒否、積極拒否、厳格、期待、干渉、不安、溺愛、盲従)についてそれぞれ、安全地帯、中間地帯、危険地帯のパーセンタイル区分を調査した。

3) 調査時期

「子どもの日常の道具使用・行為調査」と同時に、キャンプ事前調査として昭和61年7月中旬に実施。

4. 集計処理等

「子どもの日常の道具使用・行為調査」、「キャンプクラフト実践時の道具使用・行為調査」及び「親子関係診断検査」の3つの調査結果を年齢別、性別に集計し比較を行った。方法は、各度数の最低数の関係より4段階評価を2段階にまとめたうえで性別比較においてのみ χ^2 検定値を算出し有意差を判定した。各表のA+B、C+D欄が、できる、できないという大きな視点での2段階分類時の度数であり、表中の χ^2 値はその値を基にしている。また、表中のA、B、C、Dを4段階評価のランクとし、各度数と()内に百分率を示した。なお、年齢別比較における検定は度数の関係から除外した。また、一部、検定の為に補正を行ったが、ある程度の誤差が含まれたデータとして理解する必要があると考える。

結果及び考察

1. 子どもの玩具作りについて

「子どもが普段、玩具等を作ることはあるか」という設問の回答結果を表1に示した。「よく作る」と回答した、各学年における百分率をみると、年齢が上がるに従い作る活動は減少しており、工夫してものを作るという行為は、あまりなされていないと言える。幼稚園年長児の「よく作る」が28.6%であり、小学校3年生が11.8%という値は、物が豊かであり、作らなくても完成品・商品がそこにあるという現代の子ども環境を象徴していると言っても良いだろう。

次に、「どのような素材で玩具等を作っているか」という設問の回答全数における、多く使われている素材の順位と、それに合わせた学年別百分率を表2に示した。1位から4位までが紙という素材であり、次にプラスチックが使われている。布・紐・糸は7位、木は8位、竹は

10位という結果であった。以上のように、布類・木・竹といった道具を必要とする自然素材はあまり扱われておらず、紙のように扱い良い素材が主に用いられている。また、プラスチック容器・プラモデルのように扱い良い、手っ取り早いといった、現代のプラスチック中心のものの作りを反映する素材が紙の次によく使われている。現代の子ども達の作る活動は、ものを作る為に素材を探すという方向ではなく、容易に入手できる身近な素材を使うという方向に向っているとと言えるのではないだろうか。一方、「子どもが普段何名ぐらいの友人と遊んでいる

表1 子どもの玩具作り ()内は%

学年	回答	よく作る	ときどき作る	ほとんど作らない
年長		14 (28.6)	31 (63.3)	4 (8.2)
1年		6 (28.6)	11 (52.4)	4 (19.0)
2年		8 (23.5)	24 (70.6)	2 (5.9)
3年		4 (11.8)	24 (70.6)	6 (17.6)
合計		32 (23.2)	90 (65.2)	16 (11.6)

表2 子どもの玩具作りにおける素材 ()内は%

学年	順位	①折紙	②紙	③(紙)粘土	④雑誌の付録	⑤プラスチック容器	⑥プラモデル	⑦布・紐・糸	⑧木	⑨空罐	⑩竹
年長		42 (85.7)	36 (73.5)	30 (61.2)	22 (44.9)	20 (40.8)	14 (28.6)	15 (30.6)	15 (30.6)	10 (20.4)	5 (10.2)
1年		18 (81.8)	14 (63.6)	14 (63.6)	8 (36.7)	6 (27.3)	8 (36.4)	5 (22.7)	6 (27.3)	4 (18.2)	3 (13.6)
2年		30 (85.7)	24 (68.6)	30 (85.7)	14 (40.0)	13 (37.1)	9 (25.7)	12 (34.3)	6 (17.1)	4 (11.4)	1 (2.9)
3年		26 (76.5)	17 (50.0)	17 (50.0)	13 (38.2)	7 (20.6)	13 (38.2)	11 (32.4)	10 (29.4)	9 (26.5)	7 (20.6)
合計		116 (82.9)	91 (65.0)	91 (65.0)	57 (40.7)	46 (32.9)	44 (31.4)	43 (30.7)	37 (26.4)	27 (19.3)	16 (11.4)

その他は略す

か」という設問の回答は、各学年を通し3名が最も多く、少人数による小スケールの遊びが主に行われているようである。このように、普段の子ども達の生活の中では遊びそのものも萎縮傾向にあり、ダイナミックな創造活動はあまり行われていないと考えられる。

2. 親の玩具作りについて

「親が普段、子どもに玩具を作り与えることはあるか」という設問の回答結果を表3に示した。「よく作る」という回答は1名のみであり、「時々作る」が最も多く、親の一般的な作る姿勢が理解される。しかし、3年生の親は「ほとんど作らない」が50%を越えている。子どもの年齢が上がるに従い、親の玩具作りが減少することは予想がつくが、親が作るという行為の役割が大きいと思われる幼稚園年長児の親の21.3%が「ほとんど作らない」と回答している点は問題であろう。次に、玩具を作る親、ほとんど作らない親とそれぞれの子どもとの関係を探る為に、「親が普段、子どもに玩具を作り与えることはあるか」という設問の回答と、「子どもが普段、玩具を作ることはあるか」という設問の回答をクロスさせた結果を表4に示した。「親の玩具作り」と「子どもの玩具作り」とは有意な関連が認められた。つまり、親が子どもに玩

表3 親の玩具作り ()内は%

学年	回答	よく作る	ときどき作る	ほとんど作らない
年長		1 (2.1)	36 (73.6)	10 (21.3)
1年		0 (0.0)	11 (52.4)	10 (47.6)
2年		0 (0.0)	25 (75.8)	8 (24.2)
3年		0 (0.0)	16 (47.1)	18 (52.9)
合計		1 (0.7)	88 (65.2)	46 (34.1)

表4 親の玩具作りと子どもの玩具作りの関係 ()内は%

子どもの玩具作り	親の玩具作り		χ^2
	作る	作らない	
作る	87 (73.1)	32 (26.9)	18.93**
作らない	2 (13.3)	13 (86.7)	

** P<0.01

具を作り与えることが多ければ、その子どもも自分で玩具を作ることが多く、逆に、親が玩具を作ることが少なければ、その子どもも自分で玩具を作ることが少ないことを意味する。この結果は昨年と同様の調査結果と一致し、親の行為が子どもの活動に大きく影響している事実が明確となった。

「親の玩具作りにおいて、どのような素材を用いているか」という設問の全回答数における、多く使われている素材の順位と、それに合わせた学年別百分率を表5に示した。布・紐・糸が

表5 親の玩具作りにおける素材

()内は%

学年	①折紙	②布・紐・糸	③(紙)粘土	④紙	⑤木	⑥雑誌の 付録	⑦プラモデル	⑧竹	⑨空 罐	⑩プラスチ ック容器
年長	31 (63.3)	11 (22.4)	13 (26.5)	13 (26.5)	8 (16.3)	16 (32.7)	9 (18.4)	9 (18.4)	4 (8.2)	4 (8.2)
1年	15 (68.2)	7 (31.8)	7 (31.8)	6 (27.3)	5 (22.7)	3 (13.6)	5 (22.7)	0 (0.0)	2 (9.1)	1 (4.5)
2年	15 (42.9)	12 (34.3)	6 (17.1)	7 (20.0)	8 (22.9)	7 (20.0)	9 (25.7)	10 (28.6)	3 (8.6)	1 (2.9)
3年	11 (32.4)	5 (14.7)	8 (23.5)	6 (17.6)	7 (20.6)	2 (5.9)	4 (11.8)	5 (14.7)	3 (8.8)	1 (2.9)
合計	72 (51.4)	35 (25.0)	34 (24.3)	32 (22.9)	28 (20.0)	28 (20.0)	27 (19.3)	24 (17.1)	12 (8.6)	7 (5.0)

その他は略す

2位、木が5位、竹が8位に入っており、子どもの玩具作りの結果(表2)に比べ、これらの自然素材を用いる玩具作りは上位に位置づけられた。この結果より、子どもに玩具を作り与えようという意識のある親は、実数は少ないものの自然素材をかなり意図的に扱っていることが理解される。また、母親として身近な素材である布類が上位に位置づけられた事実は、親が子どもの為にもものを作り与える上で自然なあり方であり、表4において示したように、親の、もの作りの姿勢は確実に子どもに良い影響を与えていると考えられる。

3. 共通行為における、親の評価とキャンプカウンセラーの観察評価の比較

親が評価を行った「子どもの日常の道具使用・行為調査」とキャンプカウンセラーが観察評価した「キャンプクラフト実践時の道具使用・行為調査」の共通項目の評価の結果を表6に示した。なお、親の評価は、実際に子どもに作業をさせて判断したものではなく、親の予想・思い込みが数値の中に入っていることを理解しておく必要がある。また、キャンプカウンセラーの評価は、各班別に指導・観察を行い、作業終了時に判断したものである。この2つの見方の

表6 親の評価とキャンプカウンセラーの観察評価の比較

()内は%

学年	行為 紐を結ぶ						のこぎりで木を切る						玄能で釘を打つ					
	A	B	C	D	A+B	C+D	A	B	C	D	A+B	C+D	A	B	C	D	A+B	C+D
	年長	7 (14.6)	20 (41.7)	18 (37.5)	3 (6.3)	27 (56.3)	21 (43.8)	0 (0.0)	5 (10.4)	5 (10.4)	38 (79.2)	5 (10.4)	43 (89.6)	2 (4.2)	11 (22.9)	6 (12.5)	29 (60.4)	13 (27.1)
1年	3 (13.6)	14 (63.6)	4 (18.2)	1 (4.5)	17 (77.3)	5 (22.7)	1 (4.5)	3 (13.6)	8 (36.4)	10 (45.5)	4 (18.2)	18 (81.8)	1 (4.5)	8 (36.4)	8 (36.4)	5 (22.7)	9 (40.9)	13 (59.1)
2年	14 (40.0)	16 (45.7)	5 (14.3)	0 (0.0)	30 (85.7)	5 (14.3)	3 (9.1)	9 (27.3)	7 (21.2)	14 (42.4)	12 (36.4)	21 (63.6)	5 (14.7)	15 (44.1)	7 (20.6)	7 (20.6)	20 (58.8)	14 (41.2)
3年	20 (58.8)	12 (35.3)	2 (5.9)	0 (0.0)	32 (94.1)	2 (5.9)	4 (11.8)	17 (50.0)	4 (11.8)	9 (26.5)	21 (61.8)	13 (38.2)	9 (26.5)	18 (52.9)	2 (5.9)	5 (14.7)	27 (79.4)	7 (20.6)
学年	行為 紐を結ぶ						のこぎりで木を切る						玄能で釘を打つ					
	A	B	C	D	A+B	C+D	A	B	C	D	A+B	C+D	A	B	C	D	A+B	C+D
	年長	4 (8.2)	27 (55.1)	18 (36.7)	0 (0.0)	31 (63.3)	18 (36.7)	19 (38.8)	24 (49.0)	6 (12.2)	0 (0.0)	43 (87.8)	6 (12.2)	6 (12.2)	33 (67.3)	10 (20.4)	0 (0.0)	39 (79.6)
1年	3 (15.0)	14 (70.0)	3 (15.0)	0 (0.0)	17 (85.0)	3 (15.0)	12 (54.5)	9 (40.9)	1 (4.5)	0 (0.0)	21 (95.5)	1 (4.5)	11 (50.0)	4 (18.2)	7 (31.8)	0 (0.0)	15 (68.2)	7 (31.8)
2年	8 (22.9)	23 (65.7)	3 (8.6)	1 (2.9)	31 (88.6)	4 (11.4)	14 (40.0)	21 (60.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	35 (100.0)	0 (0.0)	8 (22.9)	22 (62.9)	5 (14.3)	0 (0.0)	30 (85.7)	5 (14.3)
3年	18 (52.9)	11 (32.4)	5 (14.7)	0 (0.0)	29 (85.3)	5 (14.7)	18 (52.9)	13 (38.2)	3 (8.8)	0 (0.0)	31 (91.2)	3 (8.8)	10 (29.4)	19 (55.9)	5 (14.7)	0 (0.0)	29 (85.3)	5 (14.7)

結果を比較する事により、親の、子どもへの判断と実際とのギャップを考察する事を目的とした。2調査における共通項目は「紐を結ぶ」、「のこぎりで木を切る」、「玄能で釘を打つ」の3項目とし、上段に親の評価を、下段にキャンプカウンセラーの評価を示した。

1) 紐を結ぶ

親の評価とキャンプカウンセラーの評価における大きな差は認められなかった。昨年度の調査では、親の評価がキャンプカウンセラーの評価よりかなり良く、実際は親が思っている程、子どもはできていなかったという結果であった。しかし今回の調査ではこの点は認められなかった。

2) のこぎりで木を切る

クラフト実践時のキャンプカウンセラーの評価が、親の評価より著しく良いという結果であった。親は、子どもがのこぎりを使用することは3項目中最も難しいと判断しているようであるが、実際は3項目中最もできていたことがわかる。

3) 玄能で釘を打つ

のこぎりと同様に、実際は親が思っているより、はるかにできていたことがわかる。しかし、その差はのこぎりの場合程大きくなく、釘を打つという行為は、親が思っている程、子どもはできないことはないものの、のこぎりよりも難しい要素があると言えるだろう。それは、子ども達にとって、釘を曲がらないように打つことや、力を適切に入れることは比較的難しいといった要素だと思われるが、これらは観察を通し経験的には把握していた事実である。しかし玄能は、のこぎりより使用する上で難しいという結果はやや意外であり、認識を改める必要があるだろう。

4. 性別にみた、親の評価とキャンプカウンセラーの評価の比較

親が子どもの道具使用能力を評価した12項目の結果を性別に分類したものを表7に、キャンプカウンセラーが観察評価した18項目（①～⑥は興味・意欲について、⑦～⑫は技術・能力について、⑬～⑱は楽しさ・充実度について）を表8に示した。

親の評価において有意差の認められた項目は、「紐を結ぶ」（表7-②）、「ドライバーでねじを締める」（表7-④）、「接着剤（のり以外）を使う」（表7-⑫）であり、「紐を結ぶ」は女子、それ以外は男子優位という結果であった。キャンプカウンセラーの観察評価において有意差の認められた項目は、興味・意欲面において「のこぎりで木を切る」（表8-①）、技術・能力面において「クリックドリルで木に穴をあける」（表8-⑨）であり、何れも男子優位という結果であった。楽しさ・充実度面で有意差の認められた項目はなかった。

以上の結果より、紐結び以外の道具使用は明確に男子の方にできる傾向があると言える。これは、男子と女子の普段の生活における道具との出会いの経験の差が表われていると考えられる。一方、女子に経験が多いと思われる紐結びについては興味ある結果がでている。親は明らかに女子の方がよくできると評価しているが、実際の結果をみると、男子は親が思っているよりよくできているが、女子は親が思っているよりできていなかったという事実がある。昨年度の調査では、女子が実践時においてもよくできていたが、今回は逆転している。また、実践時における紐結びのC+D群は比較的度数が多く、普段の子どもの生活における、手先の協応を必要とする作業の不足が懸念される。特に今回の調査では女子に問題が認められた。教育上の視点でみると、道具使用上の性差は基本的には問題にする必要はないと考えるが、實際上生じてくる性差は、指導上の確に捉えておく必要があるだろう。

表7 性別にみた親の評価(アンケート調査)

()内は%

行為 評価	① はさみで紙を切る							⑤ カッターで紙を切る							⑨ ペンチで針金を縛る						
	A	B	C	D	A+B	C+D	x ²	A	B	C	D	A+B	C+D	x ²	A	B	C	D	A+B	C+D	x ²
性別																					
男	74 (88.1)	9 (10.7)	1 (1.2)	0 (0.0)	83 (98.8)	1 (1.2)		20 (23.8)	34 (40.5)	4 (4.8)	26 (31.0)	54 (64.3)	30 (35.7)		2 (2.4)	8 (9.6)	9 (10.8)	64 (77.1)	10 (12.0)	73 (88.0)	
女	51 (91.1)	5 (8.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	56 (100.0)	0 (0.0)		11 (20.0)	27 (49.1)	7 (12.7)	10 (18.2)	38 (69.1)	17 (30.9)		0 (0.0)	8 (14.8)	7 (13.0)	39 (72.2)	8 (14.8)	46 (85.2)	
行為 評価	② 紐を結ぶ							⑥ 小刀で鉛筆を削る							⑩ きりで木に穴をあける						
性別																					
男	17 (20.5)	39 (47.0)	23 (27.7)	4 (4.8)	56 (67.5)	27 (32.5)	8.79**	2 (3.6)	19 (34.5)	11 (20.0)	23 (41.8)	21 (38.2)	34 (61.8)		5 (6.0)	14 (16.7)	10 (11.9)	55 (65.5)	19 (22.6)	65 (77.4)	
女	27 (48.2)	23 (41.1)	6 (10.7)	0 (0.0)	50 (89.3)	6 (10.7)		8 (9.5)	15 (17.9)	17 (20.2)	44 (52.4)	23 (27.4)	61 (72.6)		4 (7.4)	8 (14.8)	5 (9.3)	37 (68.5)	12 (22.2)	42 (77.8)	
行為 評価	③ 玄能で釘を打つ							⑦ のこぎりで木を切る							⑪ のりで紙を貼る						
性別																					
男	13 (15.5)	34 (40.5)	15 (17.9)	22 (26.2)	47 (56.0)	37 (44.0)		7 (8.3)	20 (23.8)	16 (19.0)	41 (48.8)	27 (32.1)	57 (67.9)		71 (85.5)	11 (13.3)	1 (1.2)	0 (0.0)	82 (98.8)	1 (1.2)	
女	4 (7.4)	18 (33.3)	8 (14.8)	24 (44.4)	22 (40.7)	32 (59.3)		1 (1.9)	14 (26.4)	8 (15.1)	30 (56.6)	15 (28.3)	38 (71.7)		47 (83.9)	9 (16.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	56 (100.0)	0 (0.0)	
行為 評価	④ ドライバーでねじを締める							⑧ ペンチで針金を切る							⑫ 接着剤(のり以外)を使う						
性別																					
男	18 (21.7)	29 (34.9)	11 (13.3)	25 (30.1)	47 (56.6)	36 (43.4)	14.08**	5 (6.0)	15 (17.9)	10 (11.9)	54 (64.3)	20 (23.8)	64 (76.2)		22 (26.2)	36 (42.9)	2 (2.4)	24 (28.6)	58 (69.0)	26 (31.0)	
女	5 (9.3)	8 (14.8)	8 (14.8)	33 (61.1)	13 (24.1)	41 (75.9)		3 (5.5)	9 (16.4)	6 (10.9)	37 (67.3)	12 (21.8)	43 (78.2)		10 (18.2)	15 (27.3)	3 (5.5)	27 (49.1)	25 (45.5)	30 (54.5)	7.69**

*P<0.05 **P<0.01

表8 性別にみたキャンプカウンセラーの評価(観察調査)

()内は%

行為 評価	① のこぎりで木を切る (興味・意欲)							⑦ のこぎりで木を切る (技術・能力)							⑬ のこぎりで木を切る (楽しさ・充実度)						
	A	B	C	D	A+B	C+D	x ²	A	B	C	D	A+B	C+D	x ²	A	B	C	D	A+B	C+D	x ²
性別																					
男	64 (76.2)	19 (22.6)	1 (1.2)	0 (0.0)	83 (98.8)	1 (1.2)	4.57*	43 (51.2)	38 (45.2)	3 (3.6)	0 (0.0)	81 (96.4)	3 (3.6)		67 (79.8)	14 (16.7)	2 (2.4)	1 (1.2)	81 (96.4)	3 (3.6)	
女	35 (62.5)	15 (26.8)	6 (10.7)	0 (0.0)	50 (89.3)	6 (10.7)		20 (35.7)	29 (51.8)	7 (12.5)	0 (0.0)	49 (87.5)	7 (12.5)		40 (71.4)	15 (26.8)	1 (1.8)	0 (0.0)	55 (98.2)	1 (1.8)	
行為 評価	② 玄能で釘を打つ (興味・意欲)							⑧ 玄能で釘を打つ (技術・能力)							⑭ 玄能で釘を打つ (楽しさ・充実度)						
性別																					
男	72 (85.7)	10 (11.9)	2 (2.4)	0 (0.0)	82 (97.6)	2 (2.4)		27 (32.1)	45 (53.6)	12 (14.3)	0 (0.0)	72 (85.7)	12 (14.3)		64 (76.2)	17 (20.2)	2 (2.4)	1 (1.2)	81 (96.4)	3 (3.6)	
女	40 (71.4)	10 (17.9)	6 (10.7)	0 (0.0)	50 (89.3)	6 (10.7)		8 (14.3)	33 (58.9)	15 (26.8)	0 (0.0)	41 (73.2)	15 (26.8)		42 (75.0)	9 (16.1)	4 (7.1)	1 (1.8)	51 (91.1)	5 (8.9)	
行為 評価	③ クリックドリルで木に穴をあける (興味・意欲)							⑨ クリックドリルで木に穴をあける (技術・能力)							⑮ クリックドリルで木に穴をあける (楽しさ・充実度)						
性別																					
男	74 (88.1)	9 (10.7)	1 (1.2)	0 (0.0)	83 (98.8)	1 (1.2)		34 (40.5)	36 (42.9)	14 (16.7)	0 (0.0)	70 (83.3)	14 (16.7)	7.78**	69 (82.1)	13 (15.5)	2 (2.4)	0 (0.0)	82 (97.6)	2 (2.4)	
女	42 (75.0)	12 (21.4)	2 (3.6)	0 (0.0)	54 (96.4)	2 (3.6)		9 (16.1)	26 (46.4)	21 (37.5)	0 (0.0)	35 (62.5)	21 (37.5)		48 (85.7)	7 (12.5)	1 (1.8)	0 (0.0)	55 (98.2)	1 (1.8)	
行為 評価	④ 紐を結ぶ (興味・意欲)							⑩ 紐を結ぶ (技術・能力)							⑯ 紐を結ぶ (楽しさ・充実度)						
性別																					
男	26 (31.7)	47 (57.3)	8 (9.8)	1 (1.2)	63 (87.5)	9 (12.5)		20 (24.4)	46 (56.1)	15 (18.3)	1 (1.2)	66 (80.5)	16 (19.5)		22 (26.8)	38 (46.3)	21 (25.6)	1 (1.2)	60 (73.2)	22 (26.8)	
女	18 (32.1)	30 (53.6)	8 (14.3)	0 (0.0)	48 (85.7)	8 (14.3)		13 (23.2)	29 (51.8)	14 (25.0)	0 (0.0)	42 (75.0)	14 (25.0)		17 (30.4)	24 (42.9)	15 (26.8)	0 (0.0)	41 (73.2)	15 (26.8)	
行為 評価	⑤ 木の角をノコヤスリで削る (興味・意欲)							⑪ 木の角をノコヤスリで削る (技術・能力)							⑰ 木の角をノコヤスリで削る (楽しさ・充実度)						
性別																					
男	49 (58.3)	26 (31.0)	9 (10.7)	0 (0.0)	75 (89.3)	9 (10.7)		51 (60.7)	31 (36.9)	2 (2.4)	0 (0.0)	82 (97.6)	2 (2.4)		42 (50.0)	40 (47.6)	2 (2.4)	0 (0.0)	82 (97.6)	2 (2.4)	
女	45 (80.4)	5 (8.9)	3 (5.4)	3 (5.4)	50 (89.3)	6 (10.7)		22 (44.6)	25 (44.6)	6 (10.7)	0 (0.0)	47 (88.7)	6 (11.3)		28 (50.0)	25 (44.6)	3 (5.4)	0 (0.0)	53 (94.6)	3 (5.4)	
行為 評価	⑥ 総合評価 (興味・意欲)							⑫ 総合評価 (技術・能力)							⑱ 総合評価 (楽しさ・充実度)						
性別																					
男	64 (76.2)	18 (21.4)	2 (2.4)	0 (0.0)	82 (97.6)	2 (2.4)		31 (36.9)	50 (59.5)	3 (3.6)	0 (0.0)	81 (96.4)	3 (3.6)		56 (66.7)	26 (31.0)	2 (2.4)	0 (0.0)	82 (97.6)	2 (2.4)	
女	35 (62.5)	20 (35.7)	1 (1.8)	0 (0.0)	55 (98.2)	1 (1.8)		8 (14.3)	43 (76.8)	5 (8.9)	0 (0.0)	51 (91.1)	5 (8.9)		34 (60.7)	21 (37.5)	1 (1.8)	0 (0.0)	55 (98.2)	1 (1.8)	

*P<0.05 **P<0.01

5. C+D群における、親の評価とキャンプカウンセラーの評価の比較

それぞれの調査項目における4段階評価を、指導を特に要するか否かという観点でC+D群とA+B群の2群に分類し、親が評価した学年別C+D群を図3に、キャンプカウンセラーが評価した学年別C+D群を図4に示した。なお、図中の項目の下に——線を引いた3行為は、2調査の技術面における共通のものである。

1) 紐を結ぶ(図3-②, 図4-⑩)

親の評価とキャンプカウンセラーの評価は、大きな差は認められないが実践における3年生のC+D群が2年生群より高い百分率を示している。

2) 玄能で釘を打つ(図3-③, 図4-⑧)

親の評価では、年長児から年齢が上がるに従い右下がりのグラフ、すなわち年齢が上がるに従いC+D群は減少している。実践における評価は、小学校3年生以外は親の評価よりも実際はよくできていたことがわかる。しかし、3年生群は2年生群よりC+D群の百分率は高く、親の評価との差も小さく、この行為においても問題を残している。

3) のこぎりで木を切る(図3-⑦, 図4-⑦)

親の評価におけるC+D群は、全体でみると右下がりのグラフではあるが、各学年を通し非常に高い値を示している。しかし実践時の評価は各学年ともに非常に低い値を示している。親は明らかに、子どもがのこぎりを使用する事は難しいと考えているが、実際は問題になる子どもは非常に少なく、キャンプカウンセラーはのこぎりを比較的使用がやさしい道具と位置づけていると考えられる。

4) 親の評価におけるその他

前回の調査と変更した2項目である「のりで紙を貼る」(図3-⑪)、「接着剤(のり以外)を使う」(図3-⑫)は、ほぼ問題はないと言える。「小刀で鉛筆を削る」(図3-⑥)は年齢別に最も差が大きな行為であり、年齢が上がるに従いできると位置づけられているが、実際に行為させるとどうなるか疑問である。

5) キャンプカウンセラーの評価におけるその他

図4-①~⑥の「興味・意欲」の結果をみると2行為を除き、3年生のC+D群は他群より百分率がやや高い。また、図4-⑬~⑱の「楽しさ・充実度」の結果においても1行為を除き、3年生のC+D群が他群より高い百分率を示している。次に図4-⑦~⑫の「技術・能力」の結果をみると、本来技術面を年齢的にみるとグラフは右下がりの傾向を示すが、3年生群はすべての行為において上向き傾向を示している。すなわち、3年生は2年生よりもC+D群のしめる百分率が高いことがわかる。以上のように各行為における精神面、技術面ともに3年生群にやや問題が認められた。昨年度は2年生群に問題が認められ、年齢という要素でこの問題の原因を断定することは困難であると考えられる。しかし各個人の意欲や充実度といった精神面と、行為における技術的な要素はかなり大きくかかわっていると言えるだろう。

6. 親子関係診断、親の保育・教育姿勢について

田中教育研究所編、両親態度診断検査(母親用)の結果を表9に示した。この調査は、昨年度の他調査結果において、親の、子どもへのかかわり方が大きく造形活動に影響している可能性があることが予想された為、さらにその内容を検討する為に行ったものである。

表中の安全地帯を1つの基準でみると、消極拒否、積極拒否、厳格という3態度のパーセン

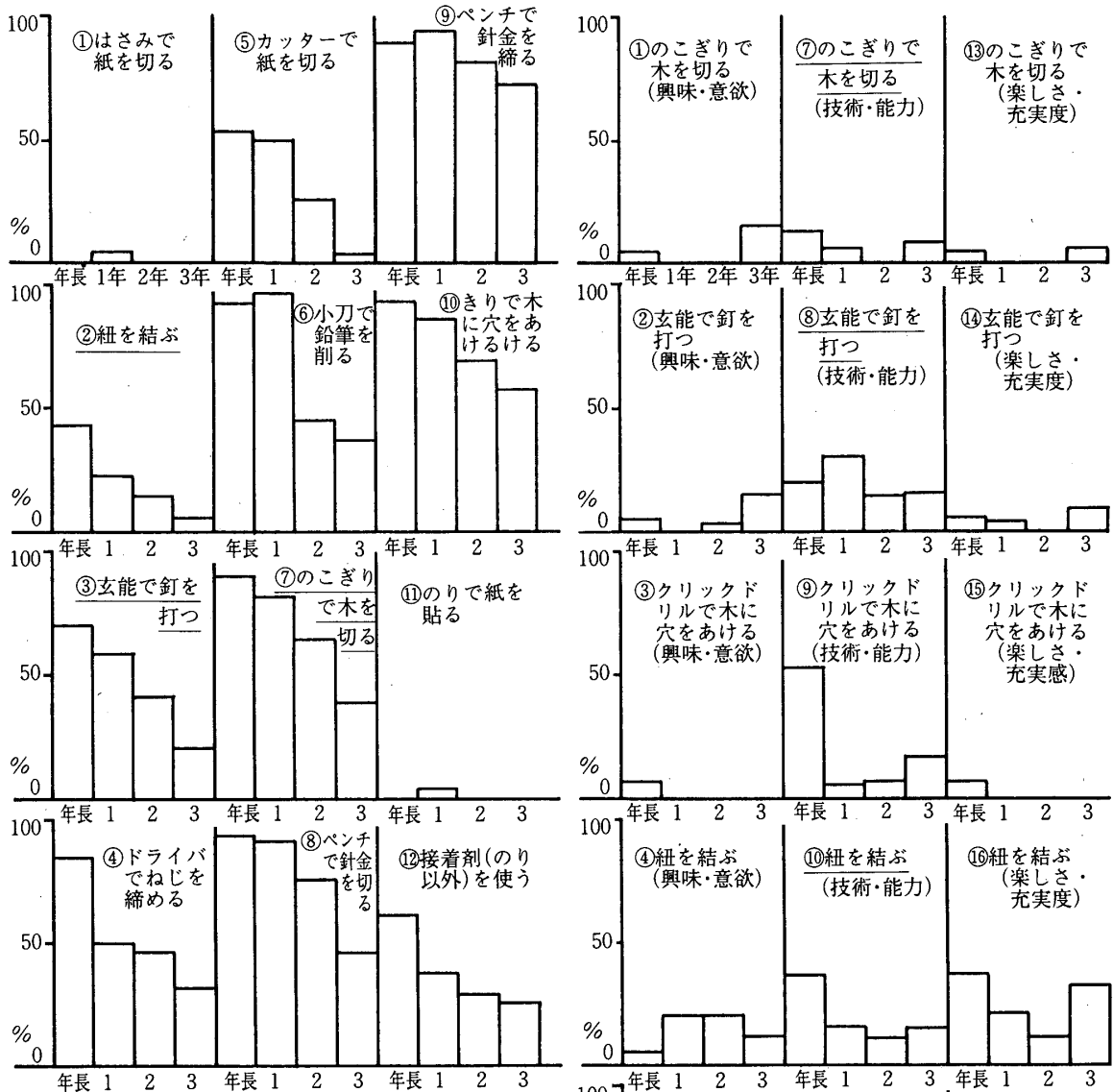


図3 親の評価 (C+D群)

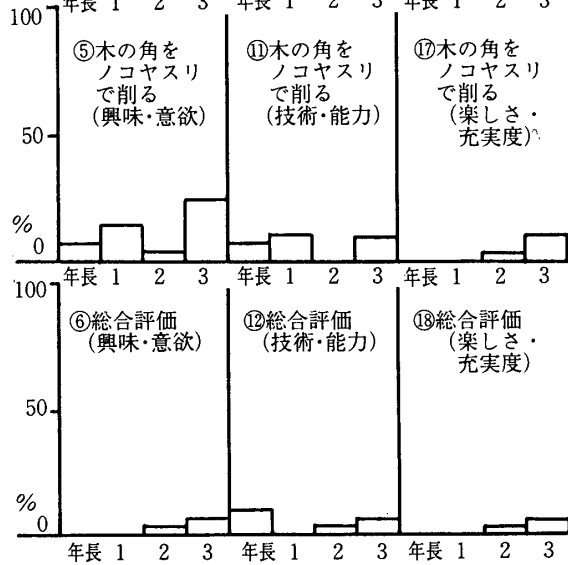


図4 キャンプカウンセラーの観察評価 (C+D群)

タイル区分に、やや危険地帯寄りの偏りが認められた。この3態度の内容を手引²⁾より要約すると、消極拒否は、親が子どもに関心がうすく、放っておくといった、親が気づかずにとっている態度であり、子どもは明るさがない、しょんぼり、孤独、欲ばりといった愛情失調症にかかりやすくなる。積極拒否は、子どもをどなったり、たたいたり、ガミガミしかったりといった、荒っぽい態度であり、子どもは反感をもったり、反抗したり、協調性がない態度になりがちである。厳格は、親の思いの枠を子どもにはめようとするもので、命令・禁止の多い態度であり、子どもは従順でお行儀はよいが、子どもらしさがなく、自主性・意欲に欠け、陰気で神経質になりやすいというものである。つまり今回の被調査群において、以上の3態度の傾向を持つ親がやや多いという事実が明らかとなった。

表9 親子関係診断検査

態度		パーセントイル区分		
		危険地帯	中間地帯	安全地帯
拒否	消極拒否	15 (12.1)	40 (32.3)	69 (55.6)
	積極拒否	24 (19.5)	30 (24.4)	69 (56.1)
支配	厳格	10 (8.1)	47 (37.9)	67 (54.0)
	期待	12 (9.7)	27 (21.8)	85 (68.5)
保護	干渉	4 (3.3)	31 (25.2)	88 (71.5)
	不安	1 (0.8)	11 (8.9)	111 (90.2)
服従	溺愛	6 (4.9)	22 (18.0)	94 (77.0)
	盲従	0 (0.0)	8 (6.5)	115 (93.5)

この3態度を学年別に区分したものを表10に示した。各学年を通して大きな差は認められなかったが、3年生群が3つの態度ともに安全地帯が50%以下という値を示し、3年生群にやや問題のある親が多いことがわかる。クラフト実践において3年生群は精神面・技術面に問題が認められたが、その親の態度にも、明確な相関は認められないものの、問題があると言わねばならないだろう。

次に、問題となった3態度を性別に区分したものを表11に示した。消極拒否の男女間に有意差が認められ、女子の親は男子の親より危険地帯に偏っていた。積極拒否・厳格については有意差は認められないものの、いずれも女子の親に危険地帯寄りの偏りがあった。このように、

表10 学年別にみた問題と思われる親の態度

態度		パーセントイル区分								
		消極拒否			積極拒否			厳格		
学年	危険地帯	中間地帯	安全地帯	危険地帯	中間地帯	安全地帯	危険地帯	中間地帯	安全地帯	
年長	6 (13.3)	9 (20.0)	30 (66.7)	8 (18.2)	6 (13.6)	30 (68.2)	4 (8.9)	16 (35.6)	25 (55.6)	
1年	3 (16.7)	4 (22.2)	11 (61.1)	3 (16.7)	8 (44.4)	7 (38.9)	2 (11.1)	7 (38.9)	9 (50.0)	
2年	2 (6.3)	16 (50.0)	14 (43.8)	7 (21.9)	6 (18.8)	19 (59.4)	3 (9.4)	10 (31.3)	19 (59.4)	
3年	4 (13.8)	11 (37.9)	14 (48.3)	6 (20.7)	10 (34.5)	13 (44.8)	1 (3.4)	14 (48.3)	14 (48.3)	
計	15 (12.1)	40 (32.3)	69 (55.6)	24 (19.5)	30 (24.3)	69 (56.1)	10 (8.1)	47 (37.9)	67 (54.0)	

表11 性別にみた問題と思われる親の態度

態度		パーセントイル区分								
		消極拒否			積極拒否			厳格		
性別	危険地帯	中間地帯	安全地帯	危険地帯	中間地帯	安全地帯	危険地帯	中間地帯	安全地帯	
男	5 (6.7)	25 (33.3)	45 (60.0)	10 (13.3)	20 (26.7)	45 (60.0)	4 (5.3)	28 (27.3)	43 (57.3)	
女	10 (20.4)	15 (30.6)	24 (49.0)	14 (29.2)	10 (20.8)	24 (50.0)	6 (12.2)	19 (38.8)	24 (49.0)	
χ^2	5.34*									

*P<0.05

性別にみると、女子の親に問題が認められたが、これは母親と女子という同性の親子関係の問題が大きいかかわっていると考えられる。

次に、親子関係診断の結果と、クラフト実践における各行為の観察結果をすべてクロスさせてみたが、明確な関連は認められなかった。すなわち、問題となる親の態度と、子どもの、造形活動における具体的行為とは直接的には結びついていないと思われる。

親の保育・教育姿勢に関する具体的な設問の回答結果を表12に示した。今回の調査で問題と

表12 親の保育・教育姿勢 ()内は%

設問 回答 学年	キャンプに参加させたことはあるか		遊ばせているか		薄着にさせているか		手伝いをさせているか		食事中テレビはつけているか		歩かせているか	
	ある	ない	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
年長	1 (2.1)	47 (97.9)	47 (95.9)	2 (4.1)	40 (85.1)	7 (14.9)	41 (83.7)	8 (16.3)	26 (53.1)	23 (46.9)	42 (85.7)	7 (14.3)
1年	10 (45.4)	12 (54.5)	21 (95.5)	1 (4.5)	21 (95.5)	1 (4.5)	19 (95.0)	1 (5.0)	16 (72.7)	6 (27.3)	20 (90.9)	2 (9.1)
2年	23 (65.7)	12 (34.3)	34 (97.1)	1 (2.9)	33 (97.1)	1 (2.9)	28 (82.4)	6 (17.6)	24 (70.6)	10 (29.4)	32 (91.4)	3 (8.6)
3年	23 (67.6)	11 (32.4)	32 (94.1)	2 (5.9)	32 (97.0)	1 (3.0)	26 (81.3)	6 (18.8)	20 (58.8)	14 (41.2)	28 (82.4)	6 (17.6)

なっている3年生群をみると、「遊ばせているか」の設問に対し「いいえ」の回答が4群中最大の5.9%、「手伝いをさせているか」の設問に対し「いいえ」が最大の18.8%、「歩かせているか」の設問に対し「いいえ」が最大の17.6%という結果が示された。つまり、今回の3年生群の中には、子どもをあまり遊ばせず、手伝いをあまりさせず、普段あまり歩かせないという傾向を持つ親がやや他群より多いと言えるだろう。

以上の考察を通し、クラフト実践において精神面・技術面ともに問題となった子どもの親は、少なからず子どもを教育的に管理しようとする姿勢があるのではないかと思われる。本来子どものしつけ面で厳しくあるべき所を放任しておいたり、子どもの日常生活に必要な以上に口やかましく、子どもに枠をはめようとしてしまう親の姿の後には、ものごとに対する興味や意欲を失い、創造行為に対しても無気力で道具もうまく使えない子どもの姿が見えてくるのである。今回の親子関係診断における8つの態度と、子どもの具体的行為との明確な相関は認められなかったが、親が気づいていない、子どもを教育的に管理しようとする姿勢は確実に子どもの子どもらしさをスポイルしていると言えるだろう。一方、親が喜びを持って子どもの為に創造行為を行っている場合、その具体的行為は想像以上に子どもに良い影響を与えているのではないだろうか。また、そのような親は子ども自身の能力を尊重し、子どもが興味や意欲を引き出せるように、しつけ面は厳しいが、子どもの自由を認め充分遊ばせているといった対応をしていると考えられる。さて、このように造形活動の視点からみて、望ましい親の姿が明らかとなってきたわけであるが、この望ましい親の姿は、特に造形面に限らず子どもの総合的な健全な成長の視点においても当てはまると考えられる。造形教育は、特殊な能力を開発するのではなく、総合的な人間教育の一環として存在するものであり、期せずして、造形面からのアプローチが、1つの望ましい親子関係の姿を示唆する結果となったと考えられる。

7. 教育効果について

表12における「キャンプに参加させたことはあるか」という設問に対して、「ある」という回答は学年が上がるに従い増え、小学校3年生の67.6%が以前にキャンプに参加している。これは、幼児キャンプに参加させて以来、毎年あるいは何回か小学生キャンプに再度参加させて

いる親がかなりいることを示している。小学校1年生の45.4%がキャンプに参加させたことがあると回答しており、幼児キャンプに参加させた親の半数近くは翌年の小学生キャンプにも参加させていることになる。このデータをみる限り、野外教育としての幼児キャンプ・小学生キャンプは父兄にかなり支持されていると考えられる。

では、造形活動の視点でこれらの数値を考察してみよう。一般に野外教育における造形活動では積み重ねの経験を通じた教育効果は望みにくい状況にあるが、研究対象としている幼児キャンプ・小学生キャンプにおいては、かなりの人数の子ども達が数年に渡るキャンプクラフトを経験していることがわかる。つまり小学生キャンプに参加している60%以上の子ども達には何年かに渡る積み重ねの教育効果が生じていると考えられる。今回の被調査群の子どもの道具使用能力を「子どもの生活技術の実態」³⁾における全国の子どもの道具使用能力と比較すると、調査状況が異なり数値のみでは断定できないものの、全国平均よりかなりよくできていると判断される。この事実より、少なからず道具使用の経験の差が技術能力の差に表われており、1つの教育効果の表れとして理解してもよいのではないかと思われる。

以上のように考えてくると、幼児キャンプと小学生キャンプにおけるキャンプクラフトは、明確にそれぞれ教育的意味が異なってくることを理解しておかねばならない。すなわち、幼児キャンプは初めての道具使用の場として、小学生キャンプは、初めての道具経験の場以外に、積み重ねの教育効果をふまえた実践の場として、それぞれ異なった教育的対応が要求されると考える。

結 語

野外教育における造形活動について、子どもの道具使用に関する視点、及び親子関係の視点を通して次の結果を得た。

1. 普段の生活において子どもが、道具を必要とする自然素材を用いてもものを作る行為はあまりなされておらず、ダイナミックな創造活動はほとんど行われていなかった。
2. 親が子どもに玩具を作る行為と、子ども自身が玩具を作る行為とは有意な関連が認められ、親が作る姿勢があるとその子どもも作るという結果であった。また、玩具を作る姿勢のある親は自然素材をかなり意図的に扱っていた。
3. 「紐結び」について、親の評価と実際のキャンプカウンセラーの評価とは大きな差は認められなかったが3年生のみ親の評価より実際の評価の方が低かった。「のこぎり」について、子どもは使えないだろうと評価している親が多かったが、実際は幼稚園年長児においても充分使用可能であった。「玄能」について、親の評価より実際の評価がかなり高かったが、のこぎりよりも使用は難しい要素があった。
4. キャンプクラフト実践を通し、すべての道具使用・行為は男子によくできる傾向が認められた。紐結びは昨年度女子が優位であったが、今年度は男子が優位となった。
5. キャンプクラフト実践を通し、小学校3年生群に精神面・技術面ともに問題が認められた。
6. 親子関係診断の結果、消極拒否、積極拒否、厳格の3態度のパーセントイル区分にやや危険地帯寄りの偏りが認められた。また、年齢別に比較した時に小学校3年生群の親に、性別に比較した時に、女子の親にやや問題があった。
7. 親子関係診断による、問題となる親の態度と造形活動における具体的行為とは直接的には関係は認められなかった。

8. 3年生群の親は、他群より子どもを教育的に管理しようとする傾向がやや強かった。

以上の結果より、今回の被調査群において、昨年と同様に、子どもの手の巧み性に欠けるといふ明確なデータは得られなかった。逆に、子どもは玄能・のこぎり等の道具を使用する技術を短い時間で修得できるという事実を再認識した。しかしながら今回の調査では、女子の紐結びの能力が昨年度よりかなり低かった。また、子どもの普段の生活では、道具を用いて自然素材を加工するという創造行為はほとんど経験されておらず、子どもは道具使用能力を持っているものの、それらが引き出される機会がなければ、しだいにその能力自体萎縮してしまうのではないかと懸念される。特にこの問題には、親の、子どもへのかかわり方が大きく影響しており、親がものを作る、作らないといった具体的行為は子どもに直接的に関係している。しかし、親自身が気づかない、子どもへの教育的管理の態度は、子どもの全人格に影響を与え、造形活動に関する精神面にも作用していると考えられる。そこで今後は親への働きかけの方法も検討する必要が生じてくるだろう。一方、造形指導という視点で子どもの道具使用をみると、性差は基本的には問題にしなくてもよいが、実践上生じてくる技術面における性差は指導者は的確に把握しておく必要があると考える。今後は具体的指導の面にも考察の範囲を広げたいと考える。

最後に、3回の調査に協力していただいた山梨大学教育学部、山田英美先生・川村協平先生・キャンプカウンセラーの学生諸氏、キャンプ参加幼児・児童の保護者の方々に深謝いたします。また、山田英美先生には、親子関係診断調査に関して幅広く御教授を賜り重ねて感謝いたします。

文 献

- 1) 渋谷寿：名古屋女子大学紀要，33，175～185（1987）
- 2) 品川不二郎他：田研・両親態度診断調査手引，4～5，明治図書出版
- 3) 谷田貝公昭他：日本保育学会第39回大会研究論文集，300～301（1986）